

山形県の古木・名木 No.92

# 千年松 (せんねんまつ)

東置賜郡高島町大字安久津 2027

千年の松は、高島町の東、安久津八幡宮の境内から入る郷土資料館通路脇にある。古来、この地に阿弥陀堂を建立した慈覚大師お手植えの松と伝えられ、「千年松」という呼び名もそのことに由来し、昭和54年8月1日に町指定天然記念物に指定されている。

樹種は赤松で、数本の大枝が扇形に伸び、広く地面を覆った姿は、あたかも巨龍の休むが如くである。  
〔山形県森林協会〕

(案内略図)



**千年松** (高島町歴史文化財)

古来、この地に阿弥陀堂を建てた慈覚大師お手植えの松と伝えられ、「千年松」という呼び名もそのことに由来し、また「阿弥陀堂の松」といわれるものも入々の長寿への願いが託されているものもある。

数本の大枝が扇形に伸び、広く地面を覆い、あたかも巨龍の休むが如くであるが、その姿は雄々しく、一木が枯れてはいないが、その樹心も枯れかけている。八幡神社本殿、三輪殿、彌陀堂、阿弥陀堂文化財(阿)との配置が、この樹を囲み、守り、育ててきた。樹種は赤松で、樹高は約20m、樹齢は約1000年と推定されている。樹皮は厚く、樹幹には多くの空洞がある。樹冠は密で、四季折々の美しさを誇るが、幹はそれ以上に、樹心は枯れかけている。樹心は枯れかけているが、樹皮は厚く、樹幹には多くの空洞がある。樹冠は密で、四季折々の美しさを誇るが、幹はそれ以上に、樹心は枯れかけている。

高島町歴史文化財 高島町歴史文化財課

【森林やまがた117号(2007年9月)記載】